

# 3人4脚



R3. 9/3(金) 第6号  
二宮西中学校学校だより  
発行者:和田 智司

## 笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。

～「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつばかり」～

2学期が始まりました。新型コロナウイルス感染症が再び広がりを見せる中ですが、子どもたちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。夏季休業期間中は、保護者および地域の皆様には生徒たちを見守っていただきありがとうございました。2学期も1学期以上に素晴らしいものにしていきたいと思ひます。



「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつばかり」という言葉があります。このコロナ禍の中、本校だけに限らず、多くの学校が今後の学校行事の開催に苦慮しています。「もし自分が中学生の時、コロナ禍の真ただ中にいたらどう思っただろうか？」このことが先日私の脳裏をかすめました。・・・生徒たちにとってこの中学校生活は一度きりです。安心・安全を第一に考えながら工夫をこらし、できる範囲で行事を開催していきたいと強く願っています。多くの方の助言や支援をいただき、制限のある中ではありますが、2学期の行事を充実したものにしていきたいと考えています。保護者および地域の皆様には引き続きご理解・ご協力のほどお願いいたします。

## 「実りの秋を導いてほしい！」

※9/1(水)の2学期の始業式で子どもたちに伝えたことです。

おはようございます。2日遅れとなりましたが、2学期の始業式を迎えました。

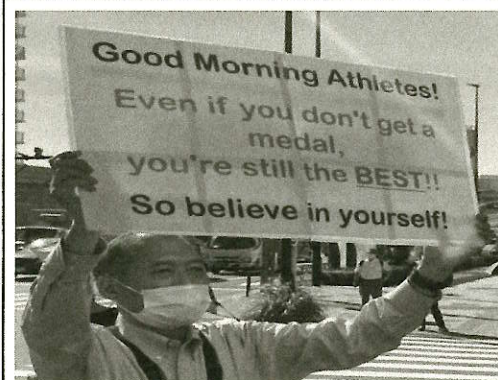
今年の夏休みは、みなさんにとってどんな夏休みだったのでしょうか。・・・今日は防災の日です。1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災にちなんだものです。今週末までに二宮町の防災安全課からいただいた町のハザードマップ等の8種類の防災資料を各階の廊下の中央付近並びに会議室に掲示します。「天災は忘れたころにやってくる」という寺田寅彦の教えを胆に命じて、自分の命は自分で守ってほしいと思ひます。・・・みなさんがこの夏休みに取り組んだ道徳の「いのちについて考える」の課題を楽しみにしています。

依然として新型コロナウイルスの深刻な感染拡大が続いています。この後、横山先生からも話がありますが、今一度、昨年6月の学校が再開できた時の緊張感を思い出し、今日からの学校生活に臨んでほしいと思ひます。

さて、始業式にあたり、8月9日(月)のブログで書いた話を1つします。今は東京2020パラリンピックの熱戦が繰り広げられていますが、東京2020オリンピックは8月8日に閉幕しました。

日本選手団は、史上最多の金27個を獲得しました。さらに銀14個、銅17個を合わせ総メダル数58個も過去最多となり世界3位の『メダル大国』へと躍進しました。

ひたむきに戦う選手、そして選手以外の方々からも本当に多くの感動をいただきました。とかくメダル争いの結果主義になりがちなオリンピックですが、オリンピックの本質を伝えてくれたある新聞記事に感激しました。・・・その記事を紹介します。それは・・・「たとえ、メダルが獲れなくても・・・」。日本人とみられる1人の男性が、オリンピックに向けて掲げたこのメッセージが、海外のネットユーザーを中心に大きな注目を集めている。



彼は毎朝、選手村の前に立って「(Good morning Athletes! Even if you don't get a medal, you're still the BEST!! So believe in yourself!) おはようございます。メダルを取らなくてもあなたは最高の選手だ!自分を信じろ!」というメッセージを掲げている。選手が自身のベストを尽くしたかいかはメダルの有無に左右されるものではないことを訴えているのだ。

この男性は7時15分にはやって来て、選手を乗せたバスが通り過ぎるたびにこのメッセージを見せ、およそ2時間滞在する。本人いわく、始めたのは開会式前日の7月22日だが、掲げるメッセージが現在のものになったのは7月26日から。多くの人々がメダルの数にこだわるようになってきたのを目にしたのが、メッセージを変えた理由だという。彼に好意的な選手たちがInstagramに写真を投稿し、一躍有名名人へと仕立て上げたのだ。彼は8月8日(日)まで立ち続ける。

どの国のどの種目の選手たちも今大会のために鍛錬を重ね、競技に全力を尽くしてきています。しかし、メダルを手にすることができるのはわずか。残りの多くの選手は目指した結果に届きません。自国の選手だけでなく、すべての選手に向けた温かいエールを贈ろうとするこの男性に本当に感激しました。



まだ残暑厳しい日々が続きますが、2学期のスタート地点に立った今、一人ひとりが自分の目標、クラスの目標、学年目標、学校目標を意識して、実りの秋を導いてほしいと思ひます。そのためのキーワードは「believe in yourself! (自分を信じろ!)」です。2学期の皆さんの成長を期待しています。

## 『こころをみがく』に包含された「命」について考える。



今回は「学・心・命」の3つの柱の3つ目の「命」。特に『健やかな体の育成』についてここで考えてみたいと思ひます。

現在、日常生活における身体活動が減少していることを考えると、一人ひとりが主体的に運動に取り組むことの必要性は、これまで以上に高まっています。生涯にわたって運動に親しむためには、乳幼児期から青年期に至るまでの間に、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、健康や体力を保持増進していくための基礎的な能力や態度を身に付けていくことがますます重要になってきています。

生徒が心身ともに健やかで安全に成長していくことができるよう、学校・家庭・地域が連携して心身の健康と安全、つまり「命」を守ることでできる体制の整備と学びの推進に取り組んでいます。具体的には、生徒が自らの心身の健康をはぐくみ、自他の命を大切に、安全を確保することのできる力の育成を図るため、保健管理・健康教育・食育・清掃・防災安全の各項目を中心に、生徒の実態に応じた指導を行っています。

さて、夏休みの道徳の課題として全校生徒に『いのちについて考える』という宿題をお願いしました。生徒は、自分で選んだ「命」や「生命の尊さ」について考えさせられた新聞記事・投書を読んでその記事を選んだ理由を交えながら、自分の意見や感想を書きました。ご家族の方には、お子さんが書いたことに対して、意見や感想のご記入のご協力をいただきまして誠にありがとうございました。全校生徒のものを全て読み、まとめたものを教材として、この2学期に子どもたちと一緒に「いのち」についての理解をより一層深めていきたいと考えています。「いのち」について実感を持った深い学びができるような授業をまずは私自身が実践したいと思っております。

